## \*\*AITL戦略提言書 v4.1 完成版\*\*

## AITL戦略提言書 v4.1 完成版

# AITL Strategy Proposal v4.1 Final Edition {#top}

## 目次 / Table of Contents {#toc}

- 0. 概要 / Overview
- 1. 統合制御の価値 / Value of Feedback-Transition Integration
- 2. LLM融合によるAITLの価値 / Value of AITL with LLM
- 3. PoC具体例 / Real-World PoC Examples
- 4. AITL実装とSystemDKの必要性 / Need for SystemDK in AITL Implementation
- 4.1 技術的課題とリスク / Technical Challenges and Risks
- 5. 政策提言 / Policy Recommendations
- 6. おわりに / Conclusion

### 0. 概要 / Overview

本提案は、**状態フィードバック制御と状態遷移制御**を統合し、さらに\*\*LLM(大規模言語モデル)**および**SystemDK(System Design Kit)\*\*を組み合わせることで、リアルタイム〜準リアルタイムにおける仕様変更対応・故障時再設計・物理制約を考慮した設計を可能とする「**AITL戦略(AI-Integrated Transition & Loop)**」を提示するものである。

This proposal presents the AITL Strategy (AI-Integrated Transition & Loop), which integrates state feedback control and state transition control, further enhanced by LLMs (Large Language Models) and SystemDK (System Design Kit). This integration enables real-time to quasi-real-time d esign modification, fault-time redesign, and constraint-aware implementation.

従来、制御・解析・物理実装はそれぞれ**独立したプロセス**として扱われてきた。 しかし、先端ノード半導体や次世代自律システムの分野では、**これらを単一の設** 計基盤上で統合的に運用することが国際競争力確保の必須条件となっている。本 提案はそのための具体的枠組みを提示する。

Traditionally, control, analysis, and physical implementation have been managed as independent processes. However, in advanced-node semiconductor design and next-generation autonomous systems, operating them within a unified design framework has become indispensable for maintaining international competitiveness. This proposal outlines a practical framework to achieve that goal.

==本提案が統合する技術群は、制御(状態フィードバック+状態遷移)、解析・設計(LLM)、物理実装最適化(SystemDK)である。これらは成果物と制約条件を直接共有できる相補的要素であり、部分的改善では到達できない「リアルタイムかつ物理制約を考慮した統合的最適化」を実現する。==

==The technologies integrated in this proposal—control (state feedback + state transition), design & analysis (LLMs), and physical implementation optimization (SystemDK)—are complementary elements that can directly share results and constraints. Together, they enable a level of real-time, constraint-aware holistic optimization that cannot be achieved through partial improvements alone.==

==さらに、世界の半導体市場と制御系産業はいま急速な変革期にあり、これら3つの技術を「今」統合しなければ、EUV世代の半導体設計や産業用自律システム制御といった分野で国家的な技術競争において致命的な遅れを招く可能性が高い。==

==特に、SystemDKはAITLの専用技術にとどまらず、あらゆる先端ノード半導体設計に不可欠な基盤である。==

==Moreover, the global semiconductor and control industries are undergoing rapid transformation. Without integrating these three technologies now, nations risk falling fatally behind in areas such as EUV-generation semiconductor design and industrial autonomous systems.== ==In particular, SystemDK is not limited to AITL-specific applications—it is an essential foundation for all advanced-node semiconductor design.=

## 1. 状態フィードバック+状態遷移統合制御の価値

統合制御は、従来型制御の課題(局所最適化・仕様変更耐性不足・故障時脆弱性)を解消し、以下の効果をもたらす。

項目 / Item	効果 / Effect	
安定性 / Stability	異なるモード間でも連続的で安定した動作を維持	
柔軟性 / Flexibility	設計時点と運用中の要求変更に柔軟対応	
冗長性 / Redundancy	一部機能喪失時にも安全かつ効率的に動作継続	

flowchart LR

A[状態フィードバック制御] --> C[統合制御コア]

B[状態遷移制御] --> C

C --> D[安定性 + 柔軟性 + 冗長性]

## 2. LLM融合によるAITLの価値 / Value of AITL with LLM {#aitl-llm-value}

AITLは**統合制御**に\*\*LLM(大規模言語モデル)\*\*を加えることで、新しい価値を 創出する。

LLM活用領域 / LLM Role	新しい価値 / New Value	
<b>状況解析</b> / Situation Analysis	ログやセンサーデータから異常検知・原因推 定を自動化	
準リアルタイム設計 / Quasi-Real-	数分単位で仕様変更に対応し、制御アルゴリ	
Time Design	ズムやFSM構造を再設計	
統合アーキ設計 / Integrated	仕様書から直接、統合制御を含む全体設計図	
Architecture Design	を生成	
故障時再設計 / Fault-Time Redesign	残存機能を活用した動作モード再構築	
SystemDK連携 / SystemDK	物理制約・ノード特性を設計段階から反映	
Collaboration	し、最適な実装形態を選択	

## 3. PoC具体例 / Real-World PoC Examples {#poc-examples}

#### 1. ロボット制御統合

- **課題:** 従来は各関節やアームの制御が個別で、故障時に全停止が必要
- 。 **AITL解決:** 統合制御+LLMにより、片腕故障時でも残存アームで作業続行可能な制御系を自動生成

#### 2. スマート工場ライン最適化

- 。 **課題:** 故障時に代替ライン構成を人手で調整するため再稼働に数日 要する
- 。 **AITL解決:** 統合制御でライン全体を最適化し、LLMが設備状態解析 から数分で代替ラインを編成

#### 3. 自律移動ロボット群制御

- 課題: 複数ロボットの経路調整に遅延が発生し、全体効率が低下
- 。 **AITL解決:** 統合制御で全体動作を同期し、LLMが交通状況解析に基づきリアルタイム経路最適化

## 4. AITL実装とSystemDKの必要性 / Need for SystemDK in AITL Implementation {#systemdk}

AITLを実システムに実装する際には、\*\*物理制約(熱・応力・電源・EMIなど)
\*\*を初期段階から設計に反映する必要がある。

\*\*SystemDK(System Design Kit)\*\*は、これを可能にする設計基盤である。

SystemDKの適用範囲はAITLに限らず、半導体チップ全般に渡る。特に、今後の先端ノード半導体チップにおいては、物理制約を設計初期段階で統合的に扱うSystemDKによる設計手法は必須となる。

- 高密度実装環境での熱・信号干渉の早期対策が可能
- FEM解析を設計段階に組み込み、回路・パッケージ・基板の統合最適化を 実現
- 長期的には設計効率・製品信頼性・量産歩留まりの向上につながる

## 4.1 技術的課題とリスク / Technical Challenges and Risks {#risks}

分類 / Category	課題 / Challenge	リスク / Risk
AI信頼性 / AI Reliability	LLM応答の精度・一貫性の保 証	誤判断・幻覚応答に よる制御ミス
セキュリティ / Security	統合制御系のサイバー攻撃耐 性	生産停止・安全性低 下
物理モデル融合 / Physical Model Integration	FEM等の物理制約モデルとリ アルタイム制御の融合	設計遅延・性能劣化
標準化とIP / Standardization & IP	標準化に伴う知財・ライセン ス調整	国際競争力低下

## 5. 政策提言 / Policy Recommendations {#policy}

## 5.1 導入効果試算 / Expected Benefits (Model Case)

前提条件: 国内製造ラインにAITL導入、PoC評価データに基づく試算値

項目 / Item	従来型 / Conventional	AITL導入後 / With AITL	効果 / Impact
故障対応時間 / Fault Response Time	8時間	30分	ダウンタイム 94%削減
生産ライン再構 成時間 / Line Reconfiguration	2日	2時間	生産性向上8 倍
設計変更対応コ スト / Design Change Cost	100	60	40%削減

### 5.2 政策ロードマップ / Policy Roadmap

#### timeline

title AITL Policy Implementation Roadmap

2025-2027 : 基盤研究支援開始 / Launch foundational R&D programs

2027-2029 : 国際標準化WG設立 / Establish international standardization WG 2029-2032 : 産業実装コンソーシアム発足 / Launch industrial implementation

consortium

## 5.3 学術化と人材育成 / Academic Systematization & Human Resource Development

AITLおよびSystemDKは、物理・制御・AIを横断する学際的領域であり、現場実装者のみでの吸収は困難である。

従って「AITL学(仮称)」を体系化し、修士〜博士レベルでの教育カリキュラムを整備することが不可欠である。

この分野で育成された人材が産業界に流入することで、研究開発と実装現場の分断を解消し、持続的な国際競争力を確保できる。

さらに、**国際共同研究ネットワーク**や**産学連携拠点**を設置し、

学術的知見と産業界の実装要求を相互循環させる仕組みを構築すべきである。 これにより、AITL学を基盤とした教育・研究・実装が連続的に展開され、 持続的な人材供給と国際競争力強化につながる。

```
flowchart TB
   A[大学院教育(修士・博士)] --> B[研究開発人材]
   B --> C[産業界での実装・応用]
   C --> D[政策・社会実装]
   D --> E[国際標準化・競争力]
   E --> A
   subgraph Academic
     Α
     В
    end
   subgraph Industrial
     C
     D
   end
   subgraph Global
     Ε
   end
style A fill:#eef5fb,stroke:#0b3d75,stroke-width:1px
style B fill:#eef5fb,stroke:#0b3d75,stroke-width:1px
style C fill:#f9f2ec,stroke:#a65e2e,stroke-width:1px
style D fill:#f9f2ec,stroke:#a65e2e,stroke-width:1px
style E fill:#f0f9f0,stroke:#2e7d32,stroke-width:1px
style A stroke-width:2px
style C stroke-width:2px
```

## 6. おわりに / Conclusion {#conclusion}

AITL戦略は、これまで分断されてきた制御技術とAI設計を統合し、 仕様変更や故障にも即応できる新しい産業システムを実現する。 SystemDKとの組み合わせにより、物理制約を考慮した最適な実装形態(ワン チップ・マルチチップ)が可能となり、

産業・社会全体の効率化と新たな価値創造を加速する。

## 戻る / Back {#back}

**Repository Home**: https://github.com/Samizo-AITL/AITL-Strategy-Proposal **Contact**: mailto:shin3t72@gmail.com | https://x.com/shin3t72